



インターネット專業銀行等の状況について

信金中央金庫 地域・中小企業研究所専任役

新井 裕

(キーワード) インターネット專業銀行、流通系銀行、住宅ローン、カードローン

(視 点)

近年、急激に業容を拡大しているインターネット專業銀行等の預金、貸出金の推移および2022年3月末の水準を他業態との比較により確認した。

インターネット專業銀行等の顧客属性（年齢分布、地域分布）について確認するとともに、顧客獲得戦略等について代表的な項目ごとに整理した。

(要 旨)

- インターネット專業銀行等業界という特定の定義はないが、ひとつの業態として仮定し、他の主な業態と預金、貸出金の残高を比較すると、2022年3月末で預金31兆5,192億円、貸出金17兆1,658億円といずれも信用組合、労働金庫を超える規模となっている。
- 直近3年間の対前年度末比増加率の推移を見ると、預金、貸出金いずれも2桁の伸びとなっており、国内銀行および信用金庫の伸びを上回っている。
- 貸出金利息については、2021年度において対前期比増加となっている銀行が多いが、住宅ローン等の大幅な増加により貸出金利回りは全行で低下している。
- インターネット專業銀行の年齢別の顧客属性を見ると、40代以下の若年層の割合が66～71%と高くなっている。また、地域別の顧客属性を見ると、関東圏だけに集中しているわけではなく、全国の人口分布に応じた顧客分布となっている。
- インターネット專業銀行等は口座開設の手軽さ、インターネット取引の利便性、高い預金金利、低手数料、低金利住宅ローンなどをセールスポイントとするとともに、グループ内の商品・サービスを総合的に提供する仕組みを構築することで、利用者の利便性をさらに高めて顧客の獲得、囲い込みを進めている。
- インターネット專業銀行等の業容拡大、顧客獲得の状況を踏まえ、銀行、信用金庫業界としても、今後の中長期的戦略を考えていく必要がある。

1. 預金、貸出金の規模

(1) インターネット専門銀行等の定義づけ

インターネット専門銀行業界、流通系銀行業界という特定の定義はないが、本レポートでは、楽天銀行以下9行をインターネット専門銀行、小売業主導で設立されたイオン銀行以下3行を流通系銀行とし、両方を合わせた12行をインターネット専門銀行等とし、ひとつの業態として定義した（図表1）。

(2) 他業態との比較

上記のインターネット専門銀行等をひとつの業態として定義し、他の主な業態と預金、貸出金の残高を比較すると、2022年3月末で預金31兆5,192億円、貸出金17兆1,658億円といずれも信用組合、労働金庫を超える規模となっている（図表2）。

(3) 地方銀行との比較

預金が7兆円を超える楽天銀行、住信SBIネット銀行について、地方銀行と比較する

と、楽天銀行は13位相当、住信SBIネット銀行は16位相当の預金規模となる（図表3）。

なお、貸出金では住信SBIネット銀行は群馬銀行に次いで12位相当の規模となる。

また、2022年6月末時点で、楽天銀行の預金、貸出金は8兆1,344億円、3兆1,691億円、住信SBIネット銀行の預金、貸出金は7兆3,431億円、5兆7,028億円となっている。

2. 預金の推移

次にインターネット専門銀行等の預金、貸出金の推移を見ることとした。

ここからは対象をインターネット専門銀行等のうち預金残高が1兆円以上の銀行に絞り、かつ大和ネクスト銀行は貸出金のほぼすべてが政府等、金融業・保険業向け貸出であるため今回は対象外とすることとした。

最初に預金であるが、直近3年間の対前年度末比増加率の推移を見ると、14.45%→25.13%→17.98%と2桁の伸びを続けている。国内銀行および信用金庫においても2020年度は給付金の入金、制度融資に伴う

図表1 インターネット専門銀行等

(単位：億円)

| | 預金 | 貸出金 | | 預金 | 貸出金 |
|--------------|---------|---------|--------|---------|---------|
| インターネット専門銀行計 | 263,977 | 146,665 | 流通系銀行計 | 51,214 | 24,993 |
| 楽天銀行 | 77,653 | 29,425 | イオン銀行 | 42,033 | 24,706 |
| 住信SBIネット銀行 | 71,158 | 54,099 | セブン銀行 | 7,927 | 282 |
| 大和ネクスト銀行 | 41,776 | 14,968 | ローソン銀行 | 1,253 | 4 |
| ソニー銀行 | 31,712 | 26,232 | | | |
| auじぶん銀行 | 22,703 | 15,978 | | | |
| PayPay銀行 | 14,617 | 4,167 | | | |
| GMOあおぞらネット銀行 | 2,935 | 1,060 | | | |
| UI銀行 | 1,362 | 720 | | | |
| みんなの銀行 | 58 | 14 | 合計 | 315,192 | 171,658 |

(備考) 1. 計数は2022年3月末。図表2、3、15についても同じ。

2. 各行のディスクロージャー誌、決算参考資料等より計数を取得し、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成。以下インターネット専門銀行等に係る図表についても同じ。

図表2 他業態との比較

(単位：億円、%)

| | 預貯金 | | 貸出金 | |
|--------------|------------|--------|-----------|--------|
| | | 構成比 | | 構成比 |
| 都市銀行 | 4,448,529 | 32.56 | 2,130,388 | 32.60 |
| 地方銀行 | 3,172,347 | 23.21 | 2,373,056 | 36.31 |
| ゆうちょ銀行 | 1,934,419 | 14.15 | 44,419 | 0.67 |
| 信用金庫 | 1,588,700 | 11.62 | 788,013 | 12.05 |
| 農協 | 1,083,432 | 7.93 | 223,885 | 3.42 |
| 第二地方銀行 | 670,407 | 4.90 | 523,465 | 8.01 |
| インターネット專業銀行等 | 315,192 | 2.30 | 171,658 | 2.62 |
| 信用組合 | 229,806 | 1.68 | 129,855 | 1.98 |
| 労働金庫 | 219,405 | 1.60 | 150,190 | 2.29 |
| 合計 | 13,662,237 | 100.00 | 6,534,929 | 100.00 |

(備考) それぞれ以下の資料より計数を取得し、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
 都市銀行、地方銀行、第二地方銀行→全国銀行協会「全国銀行預金・貸出金等速報」
 ゆうちょ銀行→当行ディスクロージャー誌
 信用金庫→日計表
 農協→農林中央金庫「全国JA貯金・貸出金残高速報」
 信用組合→全国信用組合連合会「全国信用組合預金・貸出金等状況」
 労働金庫→全国労働金庫協会「全国13労働金庫の2021年度決算概況について」

図表3 地方銀行との比較

(単位：億円)

| | | 預金 | 貸出金 | | | 預金 | 貸出金 |
|---|----------|---------|---------|----|------------|--------|--------|
| 1 | 横浜銀行 | 173,184 | 134,543 | 10 | 第四北越銀行 | 82,293 | 51,305 |
| 2 | 千葉銀行 | 147,876 | 116,913 | 11 | 八十二銀行 | 80,666 | 59,740 |
| 3 | 福岡銀行 | 130,398 | 116,413 | 12 | 群馬銀行 | 79,704 | 58,181 |
| 4 | 静岡銀行 | 114,165 | 95,337 | | 楽天銀行 | 77,653 | 29,425 |
| 5 | 常陽銀行 | 100,539 | 67,674 | 13 | 中国銀行 | 76,616 | 52,690 |
| 6 | 西日本シティ銀行 | 93,349 | 82,360 | 14 | 北陸銀行 | 74,622 | 50,616 |
| 7 | 広島銀行 | 87,511 | 69,655 | 15 | 関西みらい銀行 | 74,056 | 67,848 |
| 8 | 七十七銀行 | 86,205 | 53,402 | | 住信SBIネット銀行 | 71,158 | 54,099 |
| 9 | 京都銀行 | 83,197 | 61,489 | 16 | 足利銀行 | 68,033 | 51,281 |

(備考) 全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」より計数を取得し、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

資金繰り資金の預金口座での滞留などにより同増加率10.16%、7.10%となったものの、インターネット專業銀行等の同増加率はそれを上回る水準となっている(図表4、5)。

3. 貸出金の推移

(1) 貸出金の推移

次に貸出金であるが、インターネット專業銀行等の対前年度末比増加率は14.47%→21.99%→19.75%と預金同様2桁の伸びを続けている。2020年度については、国内銀行および信用金庫は実質無利子・無担保融資の

実行などにより同増加率はそれぞれ4.82%、7.92%と高くなったものの、インターネット專業銀行等の同増加率はそれを上回る水準となっている(図表6、7)。

なお、2022年3月末の貸出金の内訳としては、各行のディスクロージャー誌または決算参考資料等によると、楽天銀行については、カードローン3,047億円、住宅ローン7,917億円、投資用マンションローン、提携ローン等1兆8,459億円となっている。

住信SBIネット銀行、ソニー銀行については、それぞれ約82%、99%は住宅ローンと

図表4 預金の推移

(単位：億円、%)

| | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------------|---------|--------|-------|---------|--------|-------|---------|--------|-------|
| | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 6行合計 | 176,033 | 22,237 | 14.45 | 220,271 | 44,238 | 25.13 | 259,879 | 39,608 | 17.98 |
| 楽天銀行 | 35,756 | 7,674 | 27.32 | 57,655 | 21,899 | 61.24 | 77,653 | 19,998 | 34.68 |
| 住信SBIネット銀行 | 53,922 | 5,352 | 11.01 | 62,938 | 9,016 | 16.72 | 71,158 | 8,220 | 13.06 |
| ソニー銀行 | 24,818 | 1,229 | 5.21 | 28,393 | 3,575 | 14.40 | 31,712 | 3,319 | 11.68 |
| auじぶん銀行 | 14,541 | 3,862 | 36.16 | 18,946 | 4,405 | 30.29 | 22,703 | 3,757 | 19.83 |
| PayPay銀行 | 9,203 | 1,165 | 14.49 | 12,168 | 2,965 | 32.21 | 14,617 | 2,449 | 20.12 |
| イオン銀行 | 37,790 | 2,956 | 8.48 | 40,168 | 2,378 | 6.29 | 42,033 | 1,865 | 4.64 |

図表5 【参考】国内銀行および信用金庫の預金の推移

(単位：億円、%)

| | | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------|--------|-----------|---------|------|-----------|---------|-------|-----------|---------|------|
| | | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 国内銀行 | 預金合計 | 8,130,624 | 240,642 | 3.04 | 8,956,864 | 826,240 | 10.16 | 9,240,136 | 283,272 | 3.16 |
| | うち個人預金 | 4,843,136 | 146,467 | 3.11 | 5,193,229 | 350,093 | 7.22 | 5,391,443 | 198,214 | 3.81 |
| 信用金庫 | 預金合計 | 1,452,678 | 17,907 | 1.24 | 1,555,959 | 103,281 | 7.10 | 1,588,700 | 32,741 | 2.10 |
| | うち個人預金 | 1,126,939 | 11,450 | 1.02 | 1,173,057 | 46,118 | 4.09 | 1,195,693 | 22,636 | 1.92 |

(備考) 日計表、日本銀行「預金・現金・貸出金」より計数を取得し、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
国内銀行は銀行勘定のみ。以下同じ。

図表6 貸出金の推移

(単位：億円、%)

| | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------------|---------|--------|-------|---------|--------|--------|---------|--------|-------|
| | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 6行合計 | 105,824 | 13,380 | 14.47 | 129,103 | 23,279 | 21.99 | 154,609 | 25,506 | 19.75 |
| 楽天銀行 | 11,154 | 1,633 | 17.15 | 18,956 | 7,802 | 69.94 | 29,425 | 10,469 | 55.22 |
| 住信SBIネット銀行 | 40,439 | 4,368 | 12.10 | 45,667 | 5,228 | 12.92 | 54,099 | 8,432 | 18.46 |
| ソニー銀行 | 19,791 | 2,350 | 13.47 | 24,015 | 4,224 | 21.34 | 26,232 | 2,217 | 9.23 |
| auじぶん銀行 | 11,861 | 4,352 | 57.95 | 13,964 | 2,103 | 17.73 | 15,978 | 2,014 | 14.42 |
| PayPay銀行 | 974 | 183 | 23.13 | 2,472 | 1,498 | 153.79 | 4,167 | 1,695 | 68.56 |
| イオン銀行 | 21,602 | 494 | 2.34 | 24,026 | 2,424 | 11.22 | 24,706 | 680 | 2.83 |

図表7 【参考】国内銀行および信用金庫の貸出金の推移

(単位：億円、%)

| | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------|-----------|---------|------|-----------|---------|------|-----------|--------|------|
| | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 国内銀行 | 5,142,693 | 104,644 | 2.07 | 5,390,608 | 247,915 | 4.82 | 5,483,401 | 92,793 | 1.72 |
| 信用金庫 | 726,752 | 6,915 | 0.96 | 784,373 | 57,621 | 7.92 | 788,013 | 3,640 | 0.46 |

(備考) 日計表、日本銀行「貸出先別貸出金」より計数を取得し、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

なっている。

auじぶん銀行、PayPay銀行およびイオン銀行の貸出金の内訳は開示されていないが、auじぶん銀行についてはすべてが、PayPay銀行については約79%が、イオン銀行については約88%が個人向け貸出となっている。

(2) 住宅ローンの推移

次に貸出金のうちインターネット専業銀行等の主力商品のひとつである住宅ローンの推移について見ることにした。

決算参考資料等に住宅ローン残高が掲載されている4行について、対前年度末比増加率

の推移を見ると直近2021年度のソニー銀行を除いて2桁の伸びとなっており、国内銀行および信用金庫の同増加率を大きく上回っている（図表8、9）。

(3) カードローンの推移

次にカードローンの推移について見てみることにするが、2019年3月末から2022年3月末の4期にわたってカードローン残高が開示されているのは楽天銀行のみであった。

しかし、インターネット專業銀行等は法人向け貸出の割合が小さいことから、当座貸越の残高が個人向けカードローン残高に近いのではないかと考え、楽天銀行以外は参考として当座貸越の推移を見ることとした。なお、イオン銀行については、カードキャッシングの残高^(注1)も当座貸越に含まれていると推測した。

対前年度末比増減率の推移を見ると、国内

銀行および信用金庫は減少が続いているが、インターネット專業銀行等においてもauじぶん銀行およびPayPay銀行は増加が続いているものの、その他の銀行は減少傾向にある（図表10～12）。

4. 預金、貸出金利息および利回りの状況

(1) 預金利息および利回り

預金利息の増減状況については、楽天銀行およびauじぶん銀行が増加、それ以外の銀行は減少している。

預金利回りについては、auじぶん銀行が横ばい、それ以外の銀行は低下している。

預金利回りの水準としては、PayPay銀行以外は全国銀行の国内業務部門の預金債券等利回り0.01%と比較して高くなっている（図表13）。

図表8 住宅ローンの推移

(単位：億円、%)

| | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|
| | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 楽天銀行 | 5,551 | 1,220 | 28.16 | 6,800 | 1,249 | 22.50 | 7,917 | 1,117 | 16.42 |
| 住信SBIネット銀行 | 33,335 | — | — | 37,161 | 3,826 | 11.47 | 44,167 | 7,006 | 18.85 |
| ソニー銀行 | 19,348 | 2,445 | 14.46 | 23,668 | 4,320 | 22.32 | 25,983 | 2,315 | 9.78 |
| auじぶん銀行 | 7,416 | 2,981 | 67.21 | 9,565 | 2,149 | 28.97 | — | — | — |

(備考) 住信SBIネット銀行の2019年3月末とauじぶん銀行の2022年3月末の計数は決算参考資料等で確認できなかったことから対201903、202203の欄をそれぞれ「—」とした。

図表9 【参考】国内銀行および信用金庫の住宅ローンの推移

(単位：億円、%)

| | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------|-----------|--------|------|-----------|--------|------|-----------|--------|------|
| | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 国内銀行 | 1,287,191 | 29,426 | 2.33 | 1,330,627 | 43,436 | 3.37 | 1,375,515 | 44,888 | 3.37 |
| 信用金庫 | 171,328 | 1,852 | 1.09 | 172,463 | 1,135 | 0.66 | 174,490 | 2,027 | 1.17 |

(備考) 日本銀行「貸出先別貸出金」より計数を取得し、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成 図表12についても同じ。

(注) 1. イオン銀行単体での残高は不明であるが、イオン銀行ディスクロージャー誌によるとAFSコーポレーション連結ベースで3,267億円の営業債権残高がある。

図表10 カードローンの推移

(単位：億円、%)

| | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------|---------|-----|-------|---------|------|-------|---------|------|-------|
| | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 楽天銀行 | 3,629 | △38 | △1.03 | 3,303 | △326 | △8.98 | 3,047 | △256 | △7.75 |

図表11 当座貸越の推移

(単位：億円、%)

| | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------------|---------|------|--------|---------|------|--------|---------|------|-------|
| | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 住信SBIネット銀行 | 1,351 | △41 | △2.94 | 1,214 | △137 | △10.14 | 1,174 | △40 | △3.29 |
| ソニー銀行 | 173 | △10 | △5.46 | 153 | △20 | △11.56 | 143 | △10 | △6.53 |
| auじぶん銀行 | 1,846 | 177 | 10.60 | 1,947 | 101 | 5.47 | 2,100 | 153 | 7.85 |
| PayPay銀行 | 860 | 77 | 9.83 | 949 | 89 | 10.34 | 1,238 | 289 | 30.45 |
| イオン銀行 | 5,526 | △936 | △14.48 | 4,799 | △727 | △13.15 | 4,361 | △438 | △9.12 |

図表12 【参考】国内銀行および信用金庫のカードローン等の推移

(単位：億円、%)

| | 202003 | | | 202103 | | | 202203 | | |
|------|---------|--------|-------|---------|--------|--------|---------|--------|-------|
| | 対201903 | | 増減率 | 対202003 | | 増減率 | 対202103 | | 増減率 |
| | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | | 増減額 | 増減率 | |
| 国内銀行 | 55,332 | △1,732 | △3.03 | 50,009 | △5,323 | △9.62 | 48,018 | △1,991 | △3.98 |
| 信用金庫 | 6,106 | △138 | △2.21 | 5,244 | △862 | △14.11 | 5,012 | △232 | △4.42 |

図表13 預金利息および利回りの状況

(単位：百万円、%、ポイント)

| | 預金利息 | | | | 預金利回り | | |
|------------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|
| | 202103 | 202203 | 増減 | | 202103 | 202203 | 増減 |
| | | | 増減額 | 増減率 | | | |
| 楽天銀行 | 3,409 | 4,648 | 1,239 | 36.34 | 0.07 | 0.06 | △0.01 |
| 住信SBIネット銀行 | 3,478 | 2,983 | △495 | △14.23 | 0.05 | 0.04 | △0.01 |
| ソニー銀行 | 3,529 | 2,907 | △622 | △17.62 | 0.12 | 0.09 | △0.03 |
| auじぶん銀行 | 1,961 | 2,317 | 356 | 18.15 | 0.11 | 0.11 | 0.00 |
| PayPay銀行 | 111 | 91 | △20 | △18.01 | 0.01 | 0.00 | △0.01 |
| イオン銀行 | 2,198 | 1,865 | △333 | △15.15 | 0.05 | 0.04 | △0.01 |

(2) 貸出金利息および利回り

貸出金利息の増減状況については、楽天銀行およびイオン銀行以外は増加している。

貸出金利回りについては、全行で低下している。金利の低い住宅ローン等の残高がカードローン等を大きく上回って増加していることによるものと推測される。

なお、貸出金利回りを比較すると、住信SBIネット銀行およびソニー銀行が他行と比較して低くなっている。

住信SBIネット銀行については、貸出金の約82%が住宅ローンであることに加え、政府等向け貸出が約10%あること、ソニー銀行については、貸出金の約99%が住宅ローンであることによるものと思われる。

貸出金利息の額を地方銀行と比較すると、イオン銀行は803億円で5位相当、楽天銀行は448億円で16位相当となり、預金、貸出金の規模だけでなく、貸出金利息の規模も地方銀行に匹敵する水準となっている（図表14、15）。

図表14 貸出金利息および利回りの状況

(単位：百万円、%、ポイント)

| | 貸出金利息 | | | | 貸出金利回り | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
| | 202103 | 202203 | 増減 | 増減率 | 202103 | 202203 | 増減 |
| | | | | | | | |
| 楽天銀行 | 45,371 | 44,883 | △488 | △1.07 | 3.46 | 1.92 | △1.54 |
| 住信SBIネット銀行 | 33,638 | 34,469 | 831 | 2.47 | 0.79 | 0.70 | △0.09 |
| ソニー銀行 | 20,982 | 25,198 | 4,216 | 20.09 | 0.97 | 0.96 | △0.01 |
| auじぶん銀行 | 29,830 | 32,070 | 2,240 | 7.50 | 2.16 | 1.96 | △0.20 |
| PayPay銀行 | 10,442 | 14,096 | 3,654 | 34.99 | 8.92 | 4.69 | △4.23 |
| イオン銀行 | 84,011 | 80,328 | △3,683 | △4.38 | 3.70 | 3.30 | △0.40 |

図表15 地方銀行との比較

(単位：百万円)

| | 貸出金利息 | | 貸出金利息 |
|--------------|---------------|-------------|---------------|
| 1 横浜銀行 | 121,041 | 13 足利銀行 | 46,921 |
| 2 千葉銀行 | 103,378 | 14 第四北越銀行 | 45,406 |
| 3 福岡銀行 | 99,256 | 15 中国銀行 | 45,162 |
| 4 静岡銀行 | 97,979 | 楽天銀行 | 44,883 |
| イオン銀行 | 80,328 | 16 京都銀行 | 44,113 |
| 5 西日本シティ銀行 | 77,121 | 17 七十七銀行 | 42,302 |
| | | | |

(備考) 全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」により計数を取得し、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

5. 顧客属性の状況

決算参考資料に年齢別の顧客属性が掲載されている住信SBIネット銀行、楽天銀行およびPayPay銀行の顧客属性を見ると、40代以下の割合が66～71%と高くなっており、若年層の顧客獲得が進んでいる。

また、楽天銀行の地域別の顧客属性を見ると、関東圏だけに集中しているわけではなく、全国の人口分布に応じた顧客分布となっており、全国的に幅広く顧客を獲得している(図表16、17)。

6. 顧客獲得戦略および中長期目標

インターネット専門銀行等は口座開設の手軽さ、インターネット取引の利便性、高い預金金利、低い手数料、低金利住宅ローンなど

をセールスポイントとするとともに、グループ内の商品・サービスを総合的に提供する仕組みを構築することで、利用者の利便性をさらに高めて顧客の獲得、囲い込みを進めている。以下、複数行で見られる代表的な施策、特徴的な施策(住信SBIネット銀行)および中長期目標(楽天銀行)について記述する。

(1) 預金

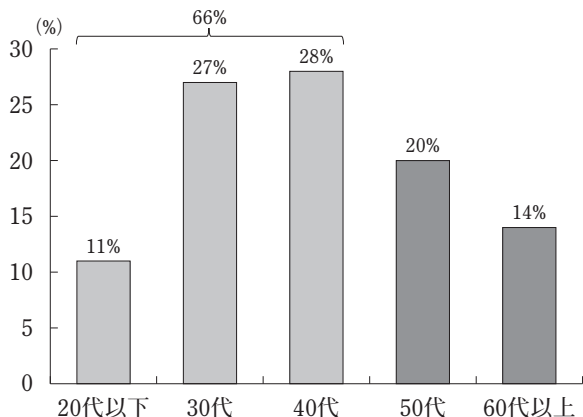
預金については、基本的に都市銀行等と比較して高い金利設定としている場合が多い。また、顧客のサービス利用状況に応じて金利の上積みを行っている。

例えば、楽天銀行では、楽天カードのカード利用額の引落しがある場合など、auじぶん銀行では、auPAYアプリとの連携、auPAYカードの引落しなどで金利が上積みされる^(注2)。

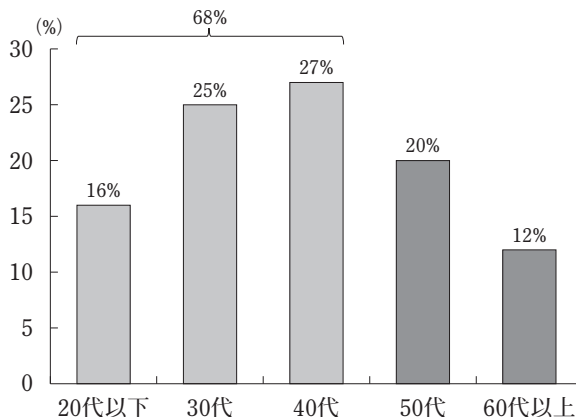
(注)2. 優遇内容は10月24日時点のもの

図表16 顧客属性（年齢分布）の状況

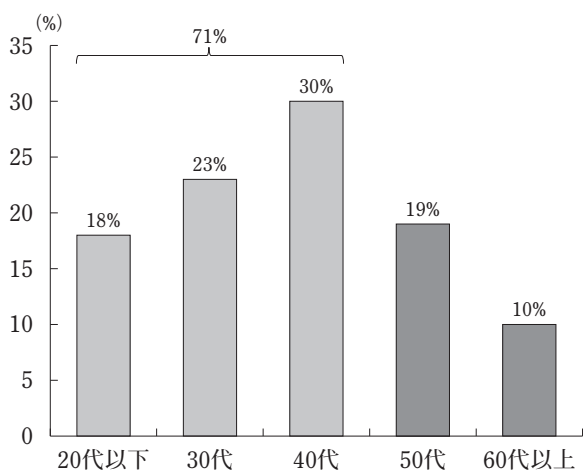
住信SBIネット銀行



楽天銀行

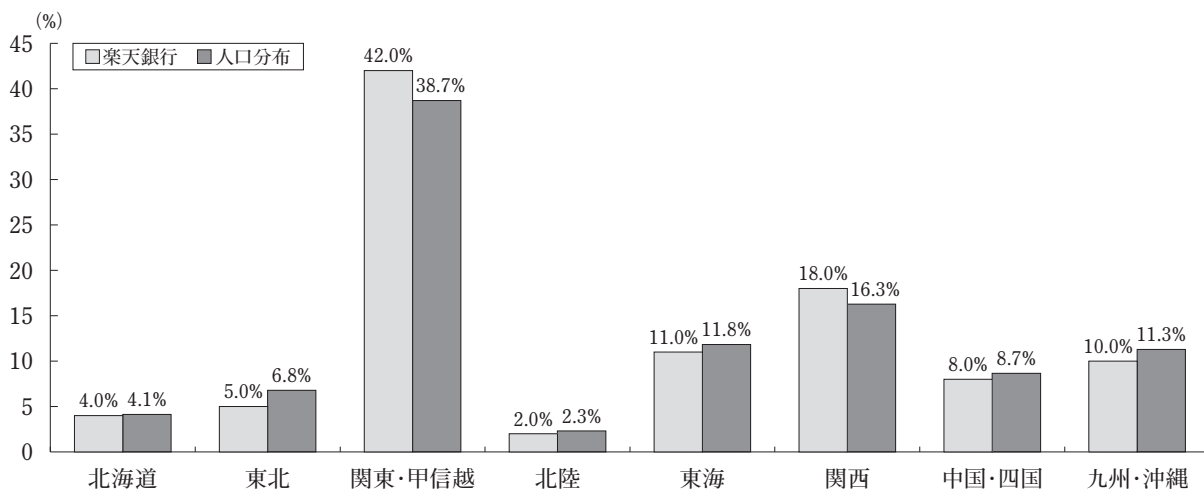


PayPay銀行



(備考) 計数は2022年3月末現在

図表17 顧客属性（地域分布）の状況



(備考) 楽天銀行の計数は2022年3月末現在。人口分布は「人口推計（2021年10月1日現在）」（総務省統計局）より計数を得し、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(2) 貸出金

貸出金については、低金利の住宅ローンを提供することにより、若年層の集客を行うとともに、カードローンなどの利用を推進している。

また、住信SBIネット銀行では、インターネット取引だけではなく、専属代理店「ローンプラザ」を設置して住宅ローンの相談、申込みの受付を行い、顧客の獲得を図っている。

(3) ステージ設定、ポイント制度

顧客のサービス利用状況に応じたステージを設定し、ATM手数料無料回数、他行振込手数料無料回数の上積みなどの特典を設けている。さらに顧客囲い込みのためにサービス利用状況に応じてグループ内および提携先等で使用できるポイントの付与を行っている。

(4) 広告宣伝費

ディスクロージャー誌に経費の内訳が掲載されている5行（楽天銀行、住信SBIネット銀行、ソニー銀行、auじぶん銀行、PayPay銀行）について見ると、多くの場合、広告宣伝費が物件費の内訳上位になっており、経費全体に占める割合も大手行（ディスクロージャー誌に経費の内訳として広告宣伝費の記載があった三井住友銀行、横浜銀行、福岡銀行）が1%台であるのに対して、平均で約14%に達している。インターネット専門銀行等は広告宣伝に力を入れることにより顧客獲得拡大を図っている。

(5) BaaS事業（住信SBIネット銀行）

住信SBIネット銀行は、パートナー企業の銀行代理業ライセンス取得をサポートし、銀行のサービス機能（融資・決済・預金機能）の中からパートナー企業の課題解決に必要なものを、FinTechを活用して提供、これにより各社の経済圏を包含する独自の経済圏を構築するとしている。

これまでに、JAL、ヤマダホールディングスなどとの協業が行われている。

例えば、JAL NEOBANKでは、口座を開くと振込や外貨預金などの商品・サービスが利用でき、対象サービスの利用状況に応じてマイルも貯められる。

(6) 中長期ビジョン（楽天銀行）

楽天銀行は、2022年4月28日に公表した「楽天銀行株式会社 中長期ビジョン」において、事業拡大の方向性として、個人ビジネスでは、①「生活口座として利用される銀行」、②テクノロジーを活用した時間と場所を選ばない「安心・安全で便利な銀行」として従前のリアル店舗における取引をデジタル化することを、法人ビジネスでは、①「取引先企業の規模にかかわらず全ての取引先に利便性を提供する銀行」、②「企業経営者のパートナーになる銀行」を目指し、本邦金融市場におけるシェア拡大を進めるとしている。そのうえで、2027年3月期の計数目標として口座数約2,500万口座、預金約20兆円を掲げている。

〈参考資料〉

- ・ 各行および関連会社HPの記載内容
- ・ 各行および関連会社HP掲載のディスクロージャー誌、決算参考資料等
- ・ 全国銀行協会HP掲載の全国銀行財務諸表分析
- ・ 城田真琴『エンベデッド・ファイナンスの衝撃』東洋経済新報社（2021）